

C-44 人体計測値の度数分布の正規性に関する研究（第1報）

— 20・21才男女15項目について —

お茶の水女大家政 柳沢澄子 ○高部啓子 中井 秀

目的 大量生産による既製服では、サイズ設定は重要な課題の一つであろう。人体に関する量的な計測値の多くは正規分布すると言われている。サイズ設定に際しては計測値は平均値・標準偏差・相関係数がそのまま意味を持つ正規分布をしていることが望まれる。私どもは被服構成学の立場から、重要と考えられる計測項目について、分布の正規性を検討してみたので報告する。

方法 工業技術院による既製服のサイズ設定を目的とした日本人の体格調査(1966, 67)における計測原票を使わせていただき、20・21才男女各1,000例を抽出し、資料とした。身長・前上腸骨棘高・袖丈・背肩幅・胸囲・胴囲・腰囲・頸付根囲・上腕最大囲・大腿最大囲・頭囲・足長・体重・背部皮下脂肪厚・上腕部皮下脂肪厚の15項目について正規確率紙並びに χ^2 検定により分布の正規性を検討した。

結果 正規分布をする項目は、男女とも身長・前上腸骨棘高・袖丈・背肩幅・腰囲・頸付根囲・上腕最大囲・大腿最大囲・頭囲・足長の10項目である。また胸囲については、男子では正規分布、女子では非正規分布を示す。